

「開拓記念碑」

福岡県粕屋町・駕輿丁開拓

福岡県の北西部に位置する糟屋郡粕屋町は、西側を福岡市と接している。福岡市のベッドタウンとして発展を続け、人口も約4万8千人と多い。鉄道・バス、高速道路などの交通網が充実しており、商業や流通業が基幹産業となっている。農業は、花き、ブロッコリー栽培などが行われている。

同町は1957（昭和32）年、仲原村と大川村の合併により誕生した。60年代頃までは、石炭採掘と稲作を中心とした農業が盛んだった。

戦後、極度の食糧難となり、政府は全国の開拓可能な原野を収容し、食糧増産を進めた。同町では、駕輿丁（かよいちょう：現在は「駕与丁」）地区で戦後開拓事業が実施された。

町内には、駕与丁池をはじめ、大小のため池がある。駕与丁池の周りには、町のシンボルとなっている駕与丁公園や、遊歩道、粕屋町総合体育館などがあり、その一角で開拓碑が保存、管理されている（写真）。

記念碑の碑銘は「開拓記念碑」。手前は説明板で、駕輿丁開拓史とともに、開拓記念碑建立除幕式（52年）の写真が載っている。

同開拓史によると、47年に駕輿丁開拓農協を結成し、旧・仲原村から16名が選ばれ、25畝に及ぶ原野の開墾が開始された。山林の切り開きや木の根の掘り起こしを全て人力で行う重労働だった。開墾には成功したものの、開拓地一帯特有の赤土は、作付けを行っても十分な収量は得られなかった。

モモ（桃）の栽培に取り組んだ後、土壌改良を重ねた結果、ブロッコリーの栽培に成功した。町の特産品「粕屋ブロッコリー」の産地として、現在も生産が続けられている。

福岡県粕屋町・駕輿丁開拓 「開拓記念碑」

- ①調査日 2020年6月25日
- ②所在地 糟屋郡粕屋町駕輿丁
- ③地区の沿革 県北西部に位置し、昭和22年に駕輿丁開拓農業協同組合を結成し、旧仲原村から16名が25ヘクタールに及ぶ原野の開墾を開始した。この一帯特有の赤土は十分な収穫を得ることはできず、土壌の研究を重ね、桃の栽培に成功した。
- ④設置年月日 昭和27年10月
- ⑤設置者 不明
- ⑥碑名 開拓記念碑
- ⑦碑文（表面） 開拓記念碑 福岡県知事 杉本 勝次 書
- ⑧碑文（裏面） 5年間の入植、開墾の経過が刻まれているが、経年劣化等で判読が困難である。碑文の後段では 「開拓地四十町歩耕地化と開墾●●●完成を記念」の文字が読み取れる。
- ⑨現在の状況 地区内の公園で管理されている。



